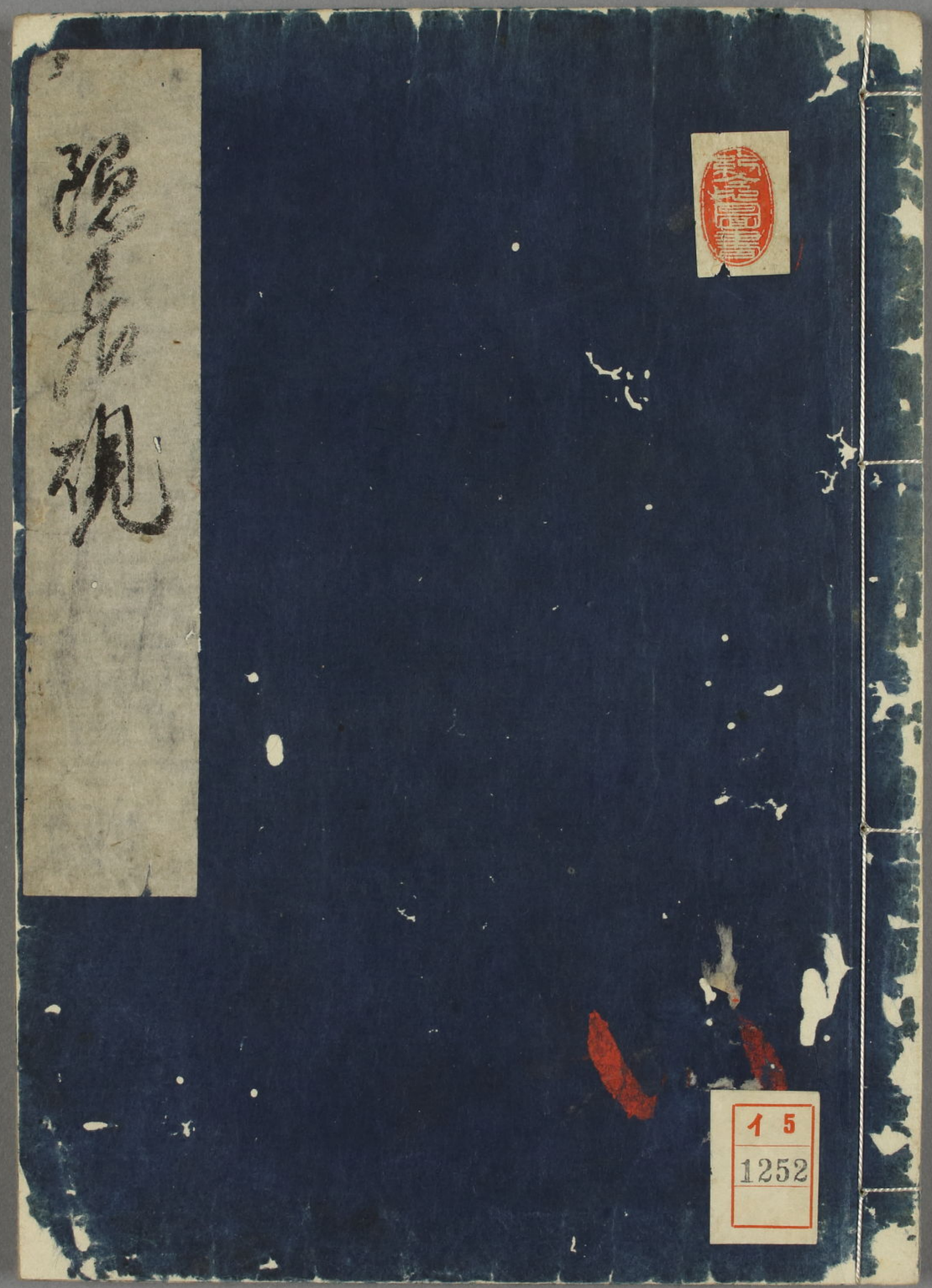

15
1252

第

源義朝石碑

阿15
1672
阿15
1252
15
1252

龍谷日記

阿波國文庫
不忍文庫

の性と刈又女の精と合て一
神に二気合一して一
應の招し始てもの主と成神感
もひろを速悟ふしこゝろふるを
一廣益衆方規矩小六味丸の下七和めくの
人房事ゝゝかゝ
好房事あるを以
陽の精の喊ゝ事有ば心ありせ

秋氏の教ゝ意の用ゐ
刈ゝ意ありて
神の新子の枕行を
陽の有ゝ病のある
云ゝ古名別の遠しく
意ゝ氣ゝ利ゝ
氣ゝ事ゝ
一命のもゝ

と思いてあるべきを要石ありて生命を免
れ、雨水大和意志を以てして動轉あり
眼に万物の象を写し耳の地のまを聞き彼く
こそ彼ぐうを知るに至れども地を去りて心の
うおく心の池よりこれ別にたてたる者
をなす。万別有心の池の至て儘なり
物〳〵ゆくするが如く多心をいうものを心もち
けもの仏もろこ竹木の影あるが如く鬼畜

ろ
ハいうまでもあれ心いうろ
一往ハ尚代とい都智主むうい智ろて所
をるそなる形ろまでを知るをむくをまのち
影多し仏ろをいうしもて未世の事仏流影
しまでもろ

一賢保安動かして初て一往をろ然印と
ハ事動ハ待て影二絶なるべし

一師の傳受しうるに業小有術小術を
三人の弟子に施すに各其の
しかも術小なるを師のさとるゝ所小
なくて合しに師父業小術ありて工遠するを
はかるに及初より師小術ありと
八十余の術小術をはかるに
行ふ能はざるもの小術を
一行の業も工夫小多利を
きいふ術の切なるもの中遠にて
費小行ふ能はざる事なり
守りしかるに名利の二者をもて
一能藝有用業を学ぶ者本源を
要を撰ぶべし琴小術

一大事の因縁あるを以て出現し
あまつさへ
与倶に
一せつ〻我の通世せられ
まつたく云着もなく
学通
今その命を

一大事記をこゝろふ文永二年八月三日大
七万余般の兵船同時よりとの津を
すゝみ弘安四年仲秋より寄端の巻
あり又八月十七日神風
敵船七万余艘
朝日大風
一東照小栗の紀事
又次

[illegible]奉元要領之旨を[illegible]
[illegible]ことを[illegible]

一伊勢の御師芸州西国[illegible]
国の神[illegible]ちぎりそよみのりの花[illegible]
と秋[illegible]心のこと[illegible]

一等の事のごとくほのぼの
知[illegible]
より[illegible]

あることは[illegible]
はを前[illegible]

一守の札小札の字[illegible]

楽の字[illegible]

一名所記小哥[illegible]

橘の木のもと[illegible]

一熱[illegible]
[illegible]

一周辺地の往来の主ともなり
一月雪山を入れあるをあけてそをかくのと
いふ今月分の家にあるもそうもの本も
周辺ともに月分をもつ招をかくことも
一むす周公日をもるを法を用て八尺の表をも
望み表千望小にてみる表を垂直のはり
南てそ表をもる午時よりうてはまを示
さそそ今日望表の長を地とすれて天

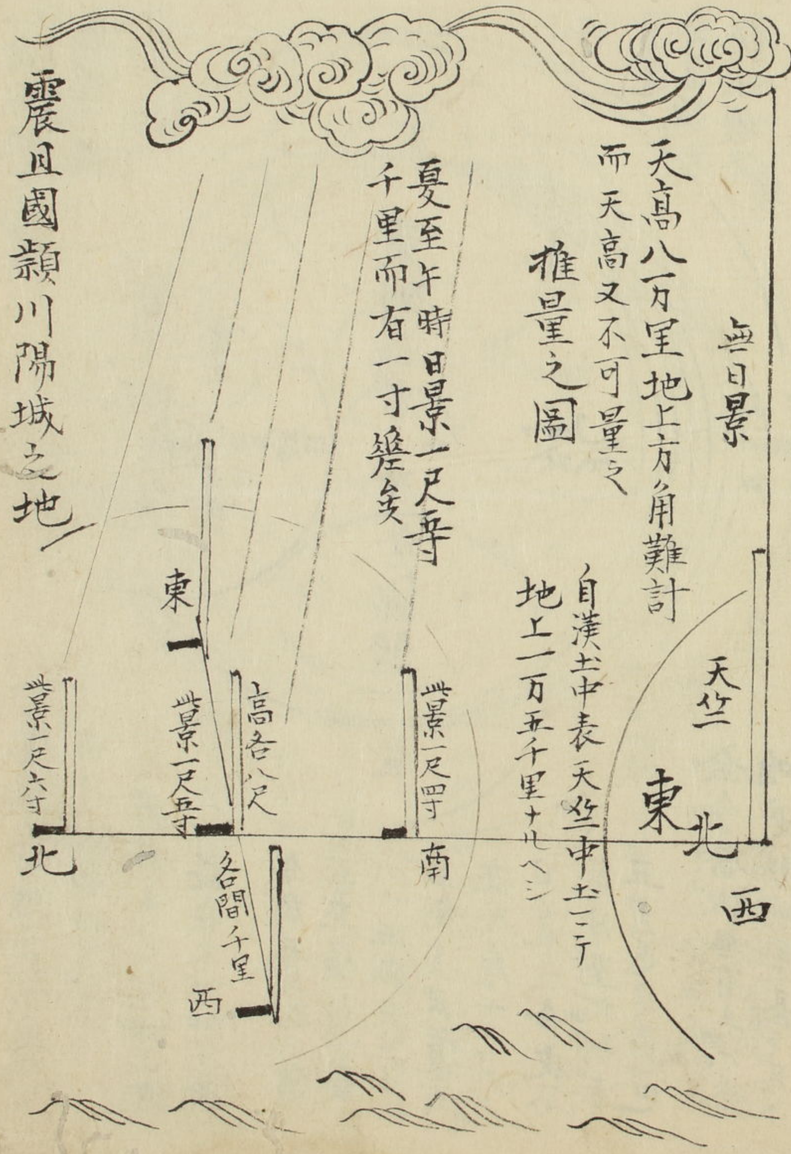
なきよりて一万五千里と矣されば
夜も天地の中心あるべし仏祖流転焉
一主無中心ともるべからず
梁高僧等小乗をしりめぐらすべし二千年を
一唐捐のごとくもちゐる成仏をはかる
世界百億の日月の本心と成仏をはかる
多小に全別天をもつ世界の中心と矣
一東都ものみちのくの関をいでざるの

[illegible]
一日月は地下より出て虚空の間を
又地下に行めぐり地の下を日の行也
一指て清き物ありひさのかげて天をめぐり
月天子ともふかくて部て地下を
一日月宮殿は水精をもて
故天竺南の水をとる

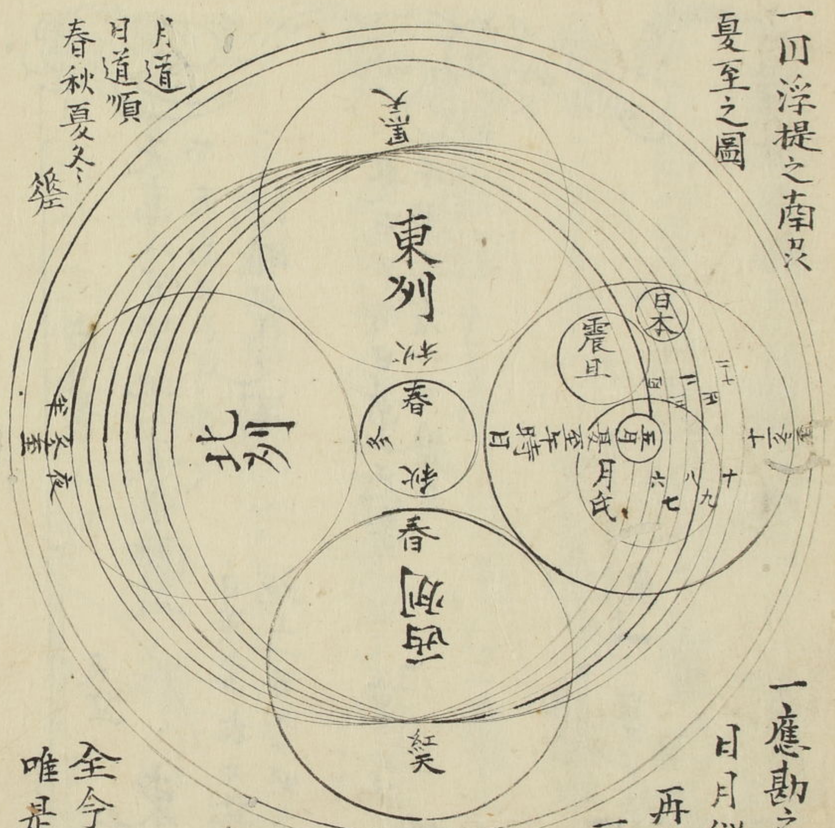
一仏従須弥の南小洲を経て後南贍部洲と云
小洲是を南方の中
一天竺七天竺の一国の
南州の中の中
一南の字元かうの名也日月没
七ツ有其字八方
一南也東のことくて通路の
もかく日のあん事

無日景

天高八万里地上方角難計
而天高又不可量之
推量之圖



一川浮提之南北
夏至之圖

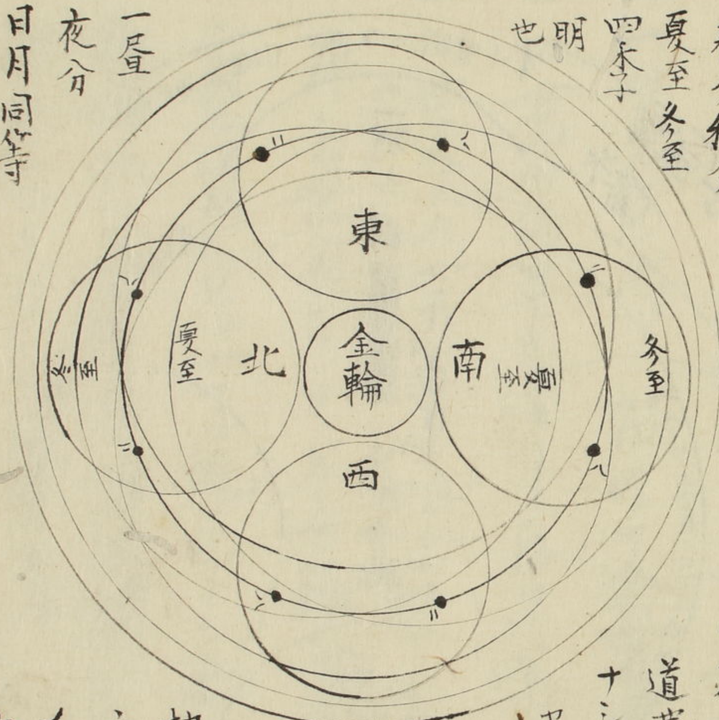



一應勘之可謂以北方爲地下
日月似有沒耳
再應考之則四方遶
一晝夜之分如下圖

今歲五月朝日當
夏至六刻六三 晝
六十五刻夜三十
五刻矣月道者
南極度十一月
日道度今夜不
見月至北列者
五月之月道也

全今曆法無有毛末差
唯是橫與竪勘之耳

春分秋分
夏至冬至
四季十
明也

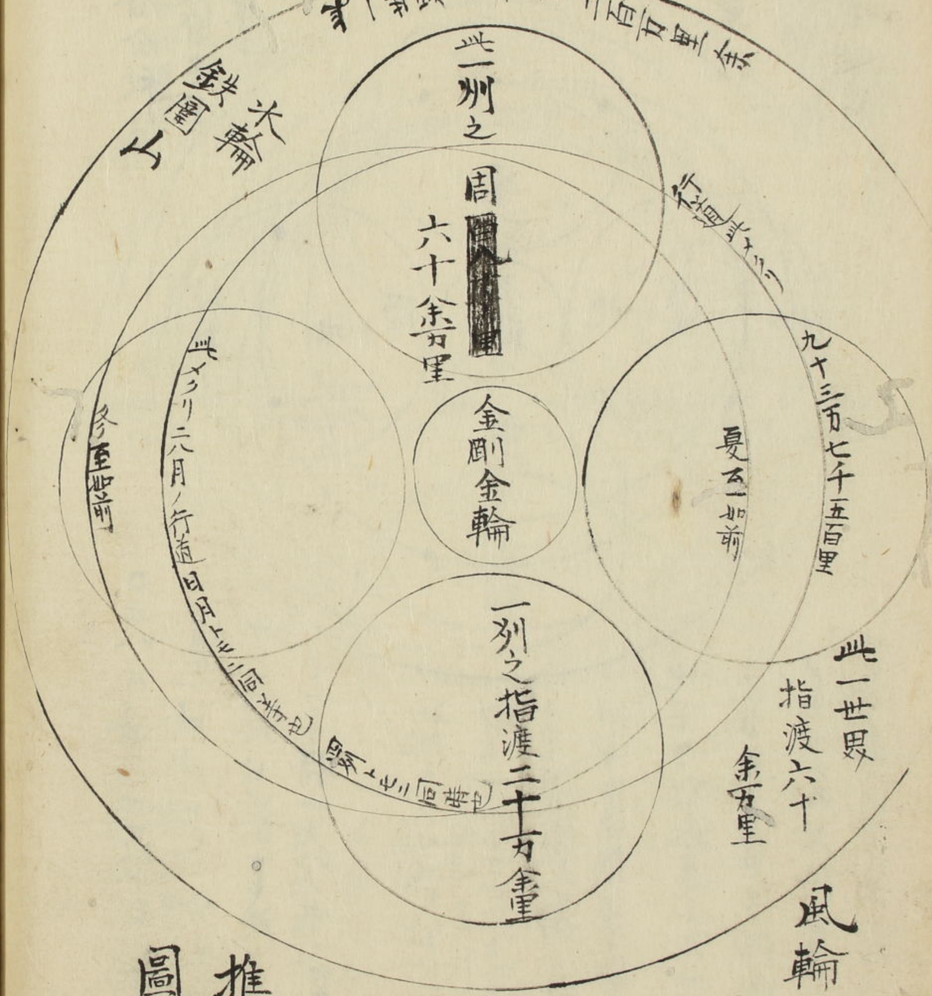



一晝
夜分
日月同等

○二八月ノ中ハ四方ト毛同等ノ行
道也日月トモニ分度ノ增減
ナシ此時日景ナキ所ノ中土ト
セニヤ併一方ノ中ニカキルベシ

此地九々ノ二日ケトモ行道
ノウツルトコロ筆二オヨビカ
タシ是ハ只一時ノ分ノ
ワキモウルノタメナリ

地下ノ岩入スルトスレハ南北
之カキリハカリカタシ橫ニ
メクルトスレハ行道ノウツル
トコロアラワレカタシ




推積圖之

一私に日月の行る九年二万七千余万里なり

一一世界の周り百の千金万里なり

一一世界の千倍を一小千世界と名く

一一世界の一兵の分源二千金万里也

一天竺のめぐり一万九千余里なり

一秦の始皇帝万里石垣をきづくと云

一漢の張騫西の地方を尋ね一万里余り

中臣叔牟古連解有之
帝之枕物、諸造ノ
勘誰之

一九人奥三年六月の間に天ハ一度をゆく実
奥とハ二千五百里一度の長数一百二十
奥といふ事ハ

日本紀口決冠註云
宋惠嚴惠觀二法師
与大史官何承天共
論此土是偏是中ノ
嚴觀乃引周公測影
之法ヲ以一尺二寸土圭
用測日影夏至之日
猶有餘陳天竺此日
則無餘陳故以天竺
爲此土ノ中也

一同云仍按に二八月を天の西時といふ
ハ天竺の事ハ小乗の南ノ加の西
ていふ事ハ天の中といふ事ハ
一千里に一寸の差をして天の一万ハ千里ふれハ也
一万ハ百里ふれハ一万ハ千里ふれハ也
一万ハ千里ふれハ一万ハ千里ふれハ也
一万ハ千里ふれハ一万ハ千里ふれハ也

佛說
一四浮提縱廣
七千由旬那
八万国有之
法華取要抄ニ出

ゟ後西を指して八万里餘前後十二万
里餘跡の前後二十二万里也
一智度論云九百四十万方由旬之
長々ゝる所廣のてく〻ゝ
方角いめ〻ゝ異名のゝ事をてく〻ゝ
れ〻あるゝにおの〻ゝ事ふゝ
膿脹をおこり志ゝ異ゝ
事ゝもみれ〻ゝ

一むゝうゝの玄奘器ゝ
化所をゝゝ
翁ゝ曰つゝゝ
いてそのゝ天竺の法
所の支を問法業の
次の所ゝいゝ
うゝゝゝ
一むゝなゝれゝの法

[illegible]
一佛の法と同果の二乗と漸頓偏円の
果となる[illegible]の一なり[illegible]
漸頓のかたにとゝまり[illegible]
律家六人の世[illegible]
にとゞまる者[illegible]
未果無いまだ[illegible]
ぜぬの梵網戒律を犯



[illegible]
[illegible]多の学道
[illegible]同果の二乗を
[illegible]理も豈
[illegible]
[illegible]
[illegible]戒俗の衆を[illegible]
[illegible]
[illegible]



罪答等といふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

世の法めの国家の二字なるべし　天台大師いはく
おしむべき慶仏一如といへり　はた源海のおもふ
ごとく笑てすべき事也　不二を云非をすてゝ
も楞加色の信心同う般若会の釈見
なりしも須達長者の西見小とあざけし龍女
畜の身を悔て仏になりしも　梵陵が仏なり
七三毛着なんど女はだかの心をあらはして

しまたその過去をとをよう〳〵出ぬ間
ふてもあてもなく　それ猫の今生
れむや仏の仏道の仏道なるべし　純も此法門
二字をやぶりしかば　無間地獄の
とも着して寺をやきうつ　来世定て能仕合
俗ぶれめ〳〵仏をうらみ　世
寄〳〵浄法華経　果の仏〳〵と心
めもはいよ〳〵仏ぶれそうし　俗ぶり俗みる

抜すて一俗の伝ふるをさとすべし
法のことのはたらくのたしかなるけっかを眼と
看たるごとく再三看に関一切分別をうつつ
神かんかんを感じ元来すがたなきかふたし
学究の名文底にかくして知る者千
万の一ありこれらの輩をいざなひ師を訪ふべし
師かけれい迷を解き正教を訂すの外深淵二伝
受益の辛労し些薮

皆之艶者の根源や
り同果候時の勢速疾一ツ経
一安国公の日蓮聖人いう
九氏の亮千葉教
ようしひそかに尚
寺で逆し
日たいこれの心
うとう芸業未の
西猶ようもそこに
同様をもあ安
人一生涯の
ず寺の不
く家をのる
ず因芸塔中
人逆ようの
等ようかい

一俗謡両女小雨ふるをまちて
一方は紀の路ぬまでと外城という角よりきぬをか
ぶりてゆく小賣女の名をあさかぬまといふを津の
に色衛賣女色しるしてより三年三月小
市とそなふ女色を賣ものすべてり妙楽
の妓ハ京女の事なり色をのふり
色一ととのふ妓ものとそてり

和歌新妓芝居のそなたの空
てふるまり毒毒高をかい賣色かし
いふかるをかしてふそ所
紀伊守ふれしも稽古の稽古の志有る紀伊
ふてふみちるなるまいあり
一夢事のそなたの空
ニもハ仕ますの
ニもハのとふそのをもの
ふまいとそふるのさい

阿波國文庫